

Series

## 私の漢方診療日誌

No.119 甘麦大棗湯の甘い誘惑 子供の夜なき、チック、円形脱毛症、過呼吸症候群など広く使えて美味しい処方

小児に漢方薬を使う上で、最も問題になるのが、「子供が漢方薬を飲んでくれるかどうか」です。漢方薬につきものの独特の香りや苦味が、美味しい物を食べなれている現代の御子ちゃまに受け入れてもらえるのでしょうか。そんな時、数ある処方の中でも、グルメなお坊ちゃま、お嬢様に自信を持ってお勧めできるのがツムラ 72 甘麦大棗湯（かんぱくたいそうとう）です。

Yちゃん（仮名）は2歳の女の子です。39度の熱があり、近所のお医者さんを受診しましたが、3日後に熱が下がって発疹と下痢が出現し、突発性発疹と診断されました。しかし、治った後も「抱っこして」と泣き続け、夜も突然怯えたように泣き始め、何時間も止まらなかったそうです。当院来院時、診察室に入る前より、獣が咆哮するような啼泣が聞こえてきて、診察室でもお母さんに抱きついて離れません。発熱はなく、全身に散在性小紅斑が見られ突発性発疹として矛盾しませんでした。診察では、腹直筋の攣急がありましたが、頸部硬直や頭痛、異常な神経所見はなく、泣き止むと会話は可能でした。脳症というよりは、精神的興奮状態が予想されました。

そこで、ツムラ 72 甘麦大棗湯 1日分1包を分2で処方し、痙攣、嘔吐や高熱があったら救急受診するよう指示しました。当日夕方、お父さんより「1回内服したが、まだ泣き止まない。どうにかしてくれ。」と外来受付に電話がありました。しかし、私が電話を代わった時には、本人がご機嫌でおしゃべりする声が聞こえたので、「夜、もう一回内服させて、明日また診察させて下さい。」と伝えました。

翌日来院した時お話を伺うと、「夜22時から翌朝8時まで一度も目覚めずによく眠れた。」ということでした。さすがに、診察時にはまた泣かれてしまいましたが、待合室でも泣かずに大人しくしており、前日に比べ著明な改善を認めました。数ヵ月後、風邪の発熱の後に再び当院を受診し、お父さんから「熱は下がったが、また前と同じ症状が出たら困るのであの薬をくれ。」と言われたので、再び甘麦大棗湯を処方しました。

甘麦大棗湯は、その他の症例では幼稚園児の円形脱毛症や、中学生の咳チック、高校生の

過呼吸症候群にも著効がありました。大人に関しても、江戸時代に島原雲仙普賢岳が噴火した時、藩主松平忠恕（ただひろ）が、地震に驚いて腹痛と全身のふるえが止らなくなったのを甘麦大棗湯で治療したと言われます。甘麦大棗湯の投与目標として、身体所見よりも、心のどこかに甘えがある、さらには甘えたいのに満たされないでいるという状況を私は重視しています。

では、甘麦大棗湯とはどんな成分からできているのでしょうか。それは、カンゾウ（甘草）、ショウバク（小麦）とタイソウ（大棗）つまりドライフルーツのナツメです。ここに、新鮮な牛乳と卵、砂糖にベーキングパウダーを加えて焼けば、子供の大好きなフルーツクッキーが完成します。こうした食品を主成分とする甘麦大棗湯について、中川良隆先生は、「甘麦大棗湯は不思議な薬である。食品でもある甘草・小麦・大棗が“心”に語りかける。」と述べていらっしゃいます。生薬ひとつひとつの作用に関して、理解するのは非常に難しいのですが、浅田宗伯先生の息子の宗叔先生が勿誤薬室方函口訣の序文で書かれているように「処方是一个の絵画と同じである、原料の色を取り出しても絵の説明にはならない。薬を一つ一つ分析し説明しても作用はわからない。処方全体としての組み合わせの作用をみないといけない」という事なのかもしれません。

